

第2回TOKYO Data Highwayサミット

議 事 録

令和2年11月18日（水）
第一本庁舎7階 中会議室

午後 2 時 00 分開会

○芹沢デジタルシフト推進担当部長 それでは、第 2 回「TOKYO Data Highwayサミット」を開会いたします。

初めに、本日の出席者を御紹介させていただきます。

小池東京都知事です。

慶應義塾大学教授の村井先生です。

株式会社NTTドコモ代表取締役社長の吉澤様です。

KDDI株式会社代表取締役社長の高橋様です。

ソフトバンク株式会社代表取締役社長執行役員兼CEOの宮内様です。

楽天モバイル株式会社代表取締役社長の山田様です。

株式会社JTOWER代表取締役社長の田中様です。

宮坂東京都副知事です。

本日の事務局は、戦略政策情報推進本部長の寺崎と、デジタルシフト推進担当部長の芹沢が務めさせていただきます。

まず、会議の冒頭に当たりまして、小池知事から御挨拶を申し上げます。

知事、お願いいたします。

○小池知事 皆様、こんにちは。

御多忙のところ、お出ましをいただきまして、誠にありがとうございます。

第 2 回の TOKYO Data Highway サミット、座長の村井先生をはじめ通信事業者各社の皆様方にお集まりいただきしております。

1 回目は昨年 11 月でございました。つまり 1 年ぶりの開催ということになりますが、1 年で世の中はこんなに変わるものだなと改めて思うところでございますし、そのときに 5 G の話もいたしておりましたけれども、この都庁の 1 階には、既に 5 G の通信環境が整っていて、私はまだ持っていないのですけれども、宮坂さんの 5 G スマートフォンはさくさくと起動しているということが、この間の大きな進歩であります。

東京都は、デジタル化を一層進めていくということを以前から決めておりまして、そして 5 つのレスと呼んでおりますけれども、ペーパーレスからキャッシュレス、最近タッチレスも含めておりますけれども、例えば、都民の側からすれば、届出、手続といったことをより簡便にしていく、そしてまた都庁の職員からもそうやって書類の整理などのエネルギーを、より密度の濃い、質の高い行政の実現に当たってもらうということで、これを QOS と呼んでおります。Quality of Life という言葉をよくお聞きになると思いますが、Quality of Service ということでしっかり取り組んでいければなと思っております。

そういうことで、皆様方も既に 5 G のサービスをいろいろな形でスタートしておられますし、今、申し上げましたように、こちらの第一本庁舎内で 5 G のサービスが開始しています。また、都が保有いたしておりますアセットを公開することによって、より皆様方の基地局の設置がスムーズに、スピーディーに行えるということでございます。

今日の時点で、10件のアセットで5Gの電波が発射されているところがございます。都のアセット、すなわち都立の施設でもう既にやっておられたり、こちらの1階は共同のシステムでやっただけしているなど、いかにして速く、確実に5Gの環境、エコシステムを整えるかというのは、これからの選ばれる都市であり続けるためには必要な「見えないインフラ」だと感じております。

ぜひとも引き続き、皆様とタッグを組んで取組を加速し、またTOKYO Data Highwayの2年目の取組につきまして、今後のサービス展開など、積極的な意見交換になればと期待をいたしております。

村井先生には引き続き座長として、国との連携なども教えていただきながら、進めていただければと存じます。

長くなりました。よろしく願いいたします。

○芹沢デジタルシフト推進担当部長 ありがとうございます。

本日の会議の座長は、村井先生にお願いしております。村井先生にも御挨拶を頂戴したいと思います。

先生、お願いいたします。

○村井座長 座長を務めさせていただきます、慶應義塾大学の村井でございます。よろしくお願いいたします。

今、知事からお話がありましたように、国でのデジタル化、DXにも関わらせていただいております。現在、議論は2つの部分から成り立っています。IT基本法は20年前につくったものですが、これを新しくつくろうという話と、もう一つは、いわゆるデジタル庁です。新しい役所をつくり、そこに権限を集約していくことで、物事を具体的に進めようという基本法の理念。このような2部構成で議論をしているところでございます。

ちょうど20年前、2000年にできた最初のIT基本法を読み返して、この作業を行っているわけです。そうすると、日本を世界最先端の情報通信社会にしよう、つまり、ブロードバンド社会に、インターネットがアクセスできる社会にしようということが主な骨子になっていて、私もそのときから関わっているのですが、あまり褒めてはいけませんが、なかなかよくできていると感じます。骨子にあるブロードバンドの環境がちゃんと津々浦々でできている。これは今のCOVID-19の状況下で実感された部分も大きいと思うのです。このインフラの部分ができているというのは、今日お集まりの各社の皆様方の20年間のいろいろな努力の成果であったということで、これは日本が誇るべきところだと思います。

一方、QOSとしてきちんと実感ができているかということ、十分でないところもあり、その部分をどうするか。それがこの次のIT基本法、日本の理念の流れになると思います。まさに知事のおっしゃるとおりですので、国全体が動いていくときに、どういう規範的な、あるいは先導的なことを東京都ができるかということとはとても大きな期待がある部分ではないかと考えております。

TOKYO Data Highwayに関しましては、推進協議会というものが別途ありまして、今日紹

介されると思いますが、そこでは研究に即したことをずっと議論しており、それが着々とできています。つまり、研究というのは少し先のことをやっているつもりなのだけれども、それが早回しになっている。COVID-19で起こっているDXも早回しですね。そういう意味では、我々も速やかに取り組んでいくことが大事なのではないかということで、今日はそういうことも伺えるということをご期待しております。

ぜひ今後とも、皆様と一緒にやらせていただければと思います。よろしく願いいたします。

どうもありがとうございます。

○芹沢デジタルシフト推進担当部長 村井先生、ありがとうございました。

本日の次第と会議資料一式は、お手元のタブレットの中に入っております。

資料につきましては、事務局職員が表示いたします。

それでは、この後の進行は座長にお任せしたいと思います。

村井先生、どうぞよろしくお願いいたします。

○村井座長 それでは、皆様、よろしくお願いいたします。

まず、次第4「スマート東京・TOKYO Data Highway戦略推進協議会の報告」ということで、宮坂副知事から御報告をお願いいたします。

○宮坂副知事 それでは私から、推進協議会でどういう議論をしてきたか、現状について皆様にお話ししたいと思います。

こういう構造になっておりまして、今日ここでTOKYO Data Highwayサミット、東京都を世界最先端のインターネット環境の街にすべく、皆様と一緒に官民一体でやろうではないかという場になっております。

その下に、スマート東京・TOKYO Data Highway戦略推進協議会がありまして、ここに村井先生はじめ有識者の方々にご参加いただきまして、今、5Gがもし実装されたらサービスとしてこんな新しい世界ができますよということを日頃から我々職員がしっかり勉強しているという形になっております。

その下に分科会をつくってございまして、ここに皆様の会社からそれぞれ担当になった方が、都の職員と一緒に、皆様が少しでも円滑に5Gのネットワークを引いたり、いろいろな工事の申請や手続きがやりやすいように、我々自身も改める点は工程を改めて、少しでも早いタイミングですばらしい環境を都民に届けられるようにやろうと。こういう分科会をやらせてもらっております。本当にこれまでありがとうございます。

これまで、先ほど真ん中であつた推進協議会のところで、先生方からいろいろなアドバイスがありました。例えば、国では信号機に5Gアンテナ基地局の設置を検討して、実験が始まると聞いております。この動きもにらみながらになりますけれども、東京都も都道が大体2,200キロありますので、そこをどう活かすかは今後、当然視野に入ってくるかなと思っています。

それから、オンライン診療です。これもコロナで一気にやらなければといった感じにな

ってきています。

スマートポールに関しては、去年はなかったのですけれども、今は実験的に都庁の前に設置して、電波だけではなくてセンサーを置いて、いろいろな街の状況が分かるようにしようとか、スマートフォンの充電ができるようにしてみようとか、そういったテストなども少しずつ始めているところでもあります。

そのような形で、先生からいろいろなアイデアをいただきながら、東京都でも職員がそれを咀嚼して、実験に取り組んでいるという状況であります。

7ページ目に信号を使った図がございます。こういったものも、電波のカバレッジが広がるだけではなく、スマートな交通制御をすとか、都市インフラをより効率的に運営する上においても非常に可能性のある取組だと思しますので、ぜひ国の動きをしっかりキャッチアップしてやっていきたいと思えます。

8ページ目は、全てがつながるとい時代になり、靴もつながるとい斬新な話をいただきました。靴にセンサーを入れることによって、歩幅が測定できる。それによって、歩幅が小さいところと大きいところがあって、歩幅を見ることによって、歩きやすい道路が分かるようになりますよとか、これまで考えもしなかった使い方だなど思いながら伺っておりました。

次のページは解像度の例で見せてもらったのですけれども、8Kになると非常にクリアな画像になりますので、こういったものが遅延なく遠くから見られるようになると、本当に医療は変わるなということを実感して見ておりました。

そういう形で、これまで推進協議会を3回やらせていただきまして、分科会も5回やりながら、皆様と一緒にあって、東京都を少しでも早く、すばらしいインターネットを都民に提供できて、その上でいろいろなサービスが乗せられるようになりたいと思えます。

特にサービスに関しては、我々も通信事業者の皆様と一緒に仕事をさせてもらう中で、皆様がいろいろな研究をされたり、いろいろな世界の動向をよく御存じなのは当然ですけれども、つくづく実感しておりますので、今日もぜひ、5Gになったりデジタルになると、東京都はこんなサービスを実装するといいいのではないかということを入力いただければ、我々もしっかり咀嚼して、少しでも取り組めるようにしたいと思えます。

知事とは最近、実験ではなくて実装だと話をしています。これからは日常的にできるフェーズに入っていないかと、実験ばかりやっていると駄目だと考えておりますので、今日いただいたものもしっかり咀嚼して、やっていきたいと思っております。

ぜひよろしく申し上げます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、次に東京都の取組状況について、事務局からの御報告をお願いいたします。

○寺崎戦略政策情報推進本部長 それでは私から、東京都のこれまでの取組状況について御説明をさせていただきます。

TOKYO Data Highwayに掲げた3つのアクションのうち、まずアクション1、つながる東

京についてですけれども、アンテナ基地局設置への都の保有アセットの開放についての状況ということで、現在、土地、建物、工作物など約1万5000件のアセットを公開しております。それらの活用状況なのですけれども、これまでに145件の現地調査のお申込みをいただいております。先ほど知事からお話がありましたが、10件のアセットにアンテナ基地局の設置が完了し、5Gサービスの提供を開始しているところでございます。今後につきましても、通信事業者の皆様と精力的に調整を進めて、5Gの取組を加速してまいりたいと考えております。

次にアクション2でございます。5Gの重点整備エリアについての進捗ということで、まず、東京2020大会の会場についてですけれども、東京アクアティクスセンターなど都が所管する7か所におきましては、5Gの整備が完了しております。

続きまして、西新宿スマートシティプロジェクトについてでございます。ここではスマートポールの先行試行設置を行っております。今年度には10基を設置する予定でございます。新宿駅から第一庁舎の1階、2階もそうですけれども、都庁舎内に至るまで、今まさに5G環境の整備が進捗しているところでございます。

あわせて、西新宿スマートシティ協議会を立ち上げまして、地域の皆様と共にスマートシティ化を推進しているところでございます。面的な整備が進む西新宿の5G環境などの場を活用いたしまして、自動運転の実証実験等を実施しております。

続きまして、東京都立大学のエリアについてでございます。このエリアでは、ローカル5Gの整備を進めております。南大沢と日野のキャンパスのローカル5G環境を活用し、先端的な研究を進めまして、Society 5.0に向けた社会実装につながる取組を推進してまいります。

続きまして、島嶼部です。島嶼部をつなぐ海底光ファイバーケーブルの整備についてでございます。

多くの島で2つの系統の通信経路を確保できるループ形状としておりまして、万が一ケーブルに損傷が発生しても、安定したサービスの提供が可能となる環境の整備を行ったところでございます。

続きまして、アクション3です。東京都自らの5G施策の展開ということで、まず、台風や大雨の際に重要となる水防災情報の発信強化でございます。河川監視カメラを追加設置いたしまして、現在38か所の河川の状況を都のホームページ上で公開しております。どなたでも、いつでも画像情報を見ることができるようになっております。

さらに、この9月末からは、一部報道機関への映像情報の提供を試行しております。今後、スマートフォンやカーナビを活用した情報提供など、民間事業者と連携をしながら、情報発信手段の多様化に向けた取組を進めてまいります。

5Gネットワークの整備状況や、カメラの仕様等を踏まえて、河川監視カメラの映像を高画質かつ動画化するなど、水防災情報の発信強化に努めてまいります。

続きまして、東京都立産業技術研究センターにおける取組についてでございます。今月、

本センター内にローカル5G、ロボット、IoT技術を総合的に支援いたしますDX推進センターを新たにオープンいたしましたところでございます。公設の試験研究機関では全国初となるローカル5G基地局を整備いたしまして、最先端の環境を活用して、中小企業を総合的に支援してまいります。

次に、ローカル5Gの活用ということで、新しい農業技術の開発についてでございます。これは東京都農林水産振興財団で民間事業者と連携し、ローカル5Gやスマートグラス、自律走行型ロボット等の先進テクノロジーを活用いたしまして、遠隔からの農業指導やデータを基にした最適な農作業支援を実現するなど、新しい農業技術の実装を目指すプロジェクトを進めてまいります。

少し具体的に申し上げますと、試験ほ場である調布市のNTT東日本の研修センターにおきまして、ローカル5G等を活用しながら、農作物の生育状況などをスマートグラスを通じて取得して、それを立川市にある東京都農林総合研究センターが遠隔でアドバイス、あるいは機器の操作などを行うことを予定しております。

次に、多種多様なロボット連携による安心・安全なエリアマネジメント実現に向けた実証についてでございます。

今年9月に羽田イノベーションシティにおいて、サービスロボットの実証を行いました。施設における多様な業務をロボットにより支援しつつ、ロボットを一元管理することによって、感染症流行下においても安心・安全に街の活動や活性化を継続できる、新しい街の在り方を発信していきたいと考えております。

最後のページにつきましては、これまで御説明させていただいた内容、前回のサミットからの5Gの取組状況の進捗は、着実に進んでいるということをもとめたものでございます。

以上、駆け足で雑駁な説明でございましたけれども、東京都の取組状況の報告でございました。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは引き続きまして、通信事業者の皆様から、都との取組や提案についての発表をいただきますが、他のことを話していただいても大丈夫です。そこから意見交換に入りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

まず最初に、NTTドコモの吉澤社長からお願いいたします。

○吉澤様 吉澤からお話しします。

東京都様との取組と、5Gの今後ということですが。

先ほどからもありましたけれども、TOKYO Data Highwayのアセットを活用した基地局ということで、左側にあります、東京芸術劇場と東京都現代美術館の2つ、11月13日から5Gのサービスを開始しております。他のアセットにつきましても引き続き、連携しながらサービス開始に向けて促進を図ってまいります。

真ん中の写真がスマートポール、先ほど説明がございました。あるいは右側はサイネ

ージです。こういったものを先行で整備いただきまして、弊社の5G基地局の運用を開始しております。

このような5G時代の新たな基地局の構築方法、そういったノウハウをぜひもっともって得て、今後のエリア展開にも活かしてまいりたいと思っております。

次のページですけれども、左側は、スマートポールに設置させていただいたドコモの5Gを活用して、8月と10月に都庁の職員の皆様に参加いただきまして、XRなどの5Gの新しい世界観を体験していただきました。職務に活かせるアイデアの検討に活かしていただいたということだと思います。

右側が、11月7日、8日に東京都主催の「あたらしい生活様式なるほど博」にXRコンテンツということで、MagicLeap1というもの、眼鏡を展示させてもらったということで、これにつきましては、体験コンテンツをたくさんの方に見ていただいたという状況でございます。

次のページですけれども、これは改めてになりますが、私どもドコモの考える5Gの導入意義というのは、デジタルトランスフォーメーションを支える大きな柱、太い柱になるのが5Gだと考えております。デジタルトランスフォーメーションの意味合いというのは何かというと、そこにもあります生産性の向上やUI/UXの抜本的な改善、さらに何と云っても今までにない新しい革新的なサービスを創出するというところに寄与すると考えておりまして、それらの実現に欠かせないものが5Gであると私どもは認識しております。

一番上に書いてありますけれども、5Gを積極的に導入して、新たな価値の創出と社会課題の解決を推進していくのだということです。新型コロナウイルスを踏まえた新たなリモート型社会にも、そういった構造変化にも貢献してまいりたいということです。

次のページですが、5Gのエリアの拡大のテンポでございます。私どもにとって5Gネットワークの比率は何より大切でございまして、5Gのために割り当てられました新たな3つの周波数を使いまして、5Gの高速・大容量エリア、ここにあるようなテンポでつくっていききたいということでございます。2年先ぐらいになりますけれども、2023年には3万2000局、70%ということで、高速・大容量な人口カバー率としていきたい。これは全国でございます。

次のページはサービス面ですけれども、ドコモはここ新宿からXR、ARとかVRとかMRとかいろいろあるわけですが、個人に合わせた新しい街の楽しみ方を御提案してまいります。これは小田急電鉄様と連携して、XR技術を活用して、新宿の街の魅力度を最大限引き出すXRシティSHINJUKUをスタートいたします。

次のページですけれども、ARコンテンツだとか、スマートフォンをかざすとXRファッションショーを見ることができるといことで、今日、11月18日からスタートいたします。

このように、今後5Gエリアが拡大することで、サービスが非常に快適に楽しめるようになるのかなということでございます。

最後ですけれども、今後、東京都様においては、より多くのお客様に5Gを体験いただ

くために、例えば都営地下鉄の主要駅周辺あるいは都営バスターミナル等を含めたアセットの開放をぜひお願いしたいと思います。

引き続き、御協力、御調整のほど、お願いいたします。

以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

引き続きまして、KDDIの高橋社長、お願いいたします。

○高橋様 よろしくお願いいたします。

まず1ページ目ですけれども、東京都における5Gの取組について御紹介させていただきます。

我々は5Gを、技術技術するものではなくて、もう少し拡張体験とか、体験価値に置き換えようと思って、タイトルを「みんなの5G」ということで、今、一生懸命世の中に訴えているところでございます。

まず、東京都のアセットを活用した5Gの基地局整備、これは他社さんと同じように、我々も今、積極的に進めさせていただいております、左側は5Gの小型のアンテナを設置している例でございます、このような形でいろいろなところに設置を始めているところでございます。

秋葉原の駅前のスピードテストで、5Gで750メガも出ておりますので、非常に素晴らしいスピードです。20年前からするとものすごい進歩だと思います。

これは具体的に東京都のアセットを活用させていただいた事例ですけれども、オレンジ色のところがサービス開始済みでございます、先ほど10か所とおっしゃいましたけれども、我々も徐々に広げていこうと思っております、東京都庁をはじめとして、このような形で今、展開を進めているところでございます。

5Gを使って何ができるのかということを経験していただくと思ひまして、左側の上はARを使ったシューティングアトラクションということで、全く何もないエリアにARを使って恐竜を出して、それをシューティングするようなアトラクションです。こういうものも集客の一つのやり方として非常に面白いと思ひまして、やっています。

また、右側の上ですけれども、VRを使った会議システムです。なかなかリアルで会議ができなくなった中において、仮想の世界でこのように会議をするシステムを開発してきておりますので、このような体験価値を提供しております。

そして、右側の下でありますと、先ほど御紹介があった西新宿での次世代のモビリティの実験です。このようなものも、新宿のフィールドをお借りしてやらせていただいているところでございます。

こちらはバーチャル空間とリアルな渋谷が連動したと書いていますけれども、実はもともと渋谷の街にARを使っているいろいろなものを出そうとしたのですが、コロナが来てしまったので、街に人が出られなくなった。そうであれば渋谷自体をバーチャルな街にしようということ、ハロウィンを狙って、長谷部区長からも話があって、今年のハロウイ

ンは渋谷に集まるのはやめましょうと言っていたいただいて、バーチャルな空間の中に人に出てきていただいた。これで大体40万人が、リアルな渋谷に行かないで、ハロウィンに参加されました。

これは警視庁の方からもすごく評価されて、こういうバーチャルな街をあちこちでつくっていくというのも一つの5Gの醍醐味で、新宿では今、ドコモさんがスタートされるとおっしゃっていましたが、ぜひともバーチャル都庁も実現されてはいかげなと思っていますところでもあります。

5Gの展開として、豊島区さんと共同参画して、11月16日からヘルスケア、ウェルネスソリューションの構築をやっておりまして、こういうものを1つの事例として豊島区さんと進めさせていただいているところがございます。

これがドローン配送です。こちらのほうも今、東京都さんにおけるドローン物流、プラットフォーム社会実装と書いていますけれども、このプロジェクトの実証実験をやらせていただいております。

あるいは、右側にありますけれども、新型コロナ対策ということで、店舗型東京版新型コロナ見守りサービスというものを提供させていただいております、5Gだけではなくて、このような新しいデジタルトランスフォーメーションの仕組みも一つ一つ導入していきたいと思っております。

我々も5Gのエリアについての展開は非常に積極的に行っておりまして、5Gの基地局につきましては2020年度末で1万局、21年度末で5万局ということで、全国のカバー率は90%程度までは広げていきたいと思っております。

若干日本の5Gの展開は後れていると言われておりますので、一気に加速をしていきたいと思っております。我々としては、10年間で2兆円ぐらいの5Gへの投資を進めていきたいと思っておりますのと、対応周波数につきましては、新規に割り当てられた周波数に加えて、既存の周波数も使うことによって、エリア拡大をしっかりと急いでいきたいと思っております。

いずれにしても、スマート東京というものを5Gで加速するという思いは一致でございますので、このようにヘルスケア、行政手続等々ございますけれども、いろいろな分野でしっかりと協力させていただきたいと思っておりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

私のほうは以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、ソフトバンクの宮内社長、お願いいたします。

○宮内様 ソフトバンクの宮内でございます。

ちょっと大げさなタイトルでございますが、本当にTOKYO Data Highwayのおかげでいろいろ勉強させていただいていますし、なおかついろいろ対応させていただいている。これからニュー・ノーマルな時代に世界最先端、来年、オリンピックも東京で開催されます。

そういう意味でのデジタル都市へということで、お話ししたいと思います。

今、東京都様との取組で、皆様もお話しされたように、5G基地局の展開ということで、10月より電波を4か所発射させていただきました。これももう少し速度を上げて、増やしていきたいと思っています。非常にいいチャンスだと思っています。

2番目には、我々の新しいオフィスですけれども、竹芝につくりました。これが東京都様のまさにスマート東京の先行的なモデルプロジェクトということで、3つのうちの1つに選んでいただきまして、誠にありがとうございます。これについては後ほど詳しくお話ししますが、完全に5Gのネットワーク並びに全ビルに1,300ぐらいのセンサーやAIカメラが入っております、本格的に5Gの環境を今、つくり上げつつあります。

1個は毛色が違いますけれども、新型コロナウイルスの唾液PCR検査については、現在、約800か所の福祉施設向けに検査キットの申込みを受け付けるなど、いろいろな形で対応させていただいている次第であります。

ネットワークの件は、長期的なレンジで入れましたけれども、直近のところでは来年末までに、KDDIさんと同じぐらいの数なのですが、5万局ぐらいで、カバレッジとしては90%ぐらいを狙おうと思っています。

その後も、どうしても5Gを全国津々浦々ということになりますと、30万局以上必要だなということが積算しますと分かりまして、そういう意味で、今後、大きな投資をしていますが、日本を少なくとも5Gのネットワークで全てカバーするという覚悟で動いている次第であります。

これはもう皆様御存じのとおり、今、取りあえずスタートして、ここでも5Gの電波が少し出ている感じなのですが、大事なポイントは、今後、低遅延あるいは多接続がやってくると、本当の意味で産業界並びにガバメントに対して本格的なデジタル化を促進するDX、デジタルトランスフォーメーションを促進することができると思っています。

とりわけ自動運転あるいは遠隔なヘルステックといったところ、あるいはスマートシティ、僕らも今、トライしていますけれども、この辺りは目玉になってくるのではなかろうかと思っています、それにはますます高速なData Highwayが必要になると考えている次第であります。

このビルに我々が移りましたが、1年以上前から契約しまして、ちょうどつくる途中だったもので、5Gのネットワークを入れ、なおかつセンサーをあちこちに入れ込んだり、AIカメラも入れてやることができまして、皆様にもぜひ見ていただきたいと思うのですが、スマートシティ竹芝が生まれております。

竹芝のデジタル化なのですけれども、一個一個述べると時間がかかるのですが、先ほど言いましたように、センサー、カメラがいっぱいついております。映像解析によって要注意者の検知ができるとか、顔認証と同時に体温がばんと出るようになっていまして、体温が37.5度以上だとゲートは開きません。なおかつ、私であったら何階と登録されていると、エレベーターと連動しまして、エレベーターに触れることなく、まさにタッチレスで自分

のフロアまで行けるということもつくりました。

それから、自動走行のロボット清掃と警備を兼ねます。これがだーっと動いております。

中にストアやレストランが入っているのですけれども、その空き具合、今、どれぐらい占めているのだろうかということがスマホでそこにいる人たちは見られるようになっていきます。

これから竹芝地区全体にも見えるようにしていこうと思っているのですけれども、今は取りあえずビルの中。そうすると空いている時間が分かるし、空いている時間はテナントの方はクーポンを出して集めるとかができるし、そういうことをやっています。

それから、デジタルサイネージがあちこちについてまして、緊急時の災害情報もリアルタイムでできる。そのようなことを今やって、本格的なデジタル化の推進ということで動いておる次第です。

これは前回も少し申し上げさせていただいたのですけれども、これからは全てがスマートフォンがエンドポイントになると僕は思っています、スマートフォンで全てを処理する。工場で働く人も、リテールで働く人も、都の職員の方々も、都民も、みんなスマホでいろいろなことができる。まさに3密対策もそうだし、コロナ対策もそうだし、医療もそうだし、住民票もそうだし、ここに書いているようなことを進めれば、確実にデジタル化、DXが一気に進むと思っている次第であります。

以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、楽天モバイルの山田社長、お願いいたします。

○山田様 楽天モバイルの山田でございます。

この1年間の東京都様との取組と、楽天モバイルの今後について、簡単に御説明をさせていただきます。

小池知事のお話にもございましたけれども、東京都様のアセットを開放していただき、誠にありがとうございます。非常に積極的に取り組ませていただきまして、ここに出ていますとおり、Sub6、ミリ波、合わせて4つの箇所にて電波発射を行うことができっております。この取組については、来年以降も積極的に、継続的に進めさせていただきたいと考えております。

東京都様が推進するスマートポールの実証実験にも参画させていただきました。東京電力パワーグリッド社様と連携をしております。ドコモさんとの共同設置でございますが、パットマウント、地上用の変圧器、これは都庁のすぐ近くでございますが、こちらに5Gのアンテナ基地局を設置しております。今後もスマートポールの実証実験は積極的に参加させていただきたいと思っております。

東京都様による「あたらしい生活様式なるほど博」、11月の初めに行われたものでございますけれども、楽天はもともとeコマースの会社でございますので、楽天による新たな無人ショップ体験ということで「WallSHOP」というものを展示させていただきました。非

対面・非接触で新しいショッピング体験ができるということで、非常にたくさんの方に御覧いただいております。宮坂副知事もブースに立ち寄っていただいて、大型サイネージの今後の可能性に大いに期待をするということで、コメントをいただいております。

御存じのとおり私どもは新規参入でございます、昨年10月に限定的にサービスを開始いたしまして、今年4月から本格的にサービスを開始しております。限定的に入った昨年10月の時点、これは4Gでございますけれども、全国で見ますと人口カバー率が18.1%、今年10月の時点ですと人口カバー率が63.1%まで、急ピッチで広がっております。東京都だけで見ると、今年10月の時点で87.4%ということで、総務省様にお出しした計画を大きく上回るペースで4G基地局開設を加速しております、できれば来年夏ぐらいには、ほぼ90数%の人口カバー率まで行けないかなということで、今、基地局チームが鋭意、本当に全社を挙げてこれに取り組んでいるということでございます。

5Gなのですが、本格的なサービス開始を今年の4月にしてから、半年後の今年9月に、一部地域ではございますけれども、5Gサービスをスタートしております。端末のほうも、独自の端末も含めて今販売しております。

当然まだ限定的な地域なのですが、これも各社様、かなり積極的に5Gの展開を広げられると今、お話がございましたが、私どももどれぐらい積極的に行くかというプランを練っているわけございまして、後れを取らないように、5Gについては積極的に取り組んでいきたいということでございます。

全都道府県での5Gサービス開始が来年3月でございます。地域としてはそんなに多くはないかもしれませんが、最低でも全都道府県で5Gサービスをスタートすると。

それから、技術的な話になってしまいますが、今、私どもを含め皆様がやっておられるのは、5Gといっても、無線の部分は5Gなのですが、大元の交換機の部分は従来型の交換機を使っております、それがノンスタンドアローンという言い方をしておりますが、これが5Gのポテンシャルをフルに活かすことのできる、スタンドアローン型にいずれ切り替える。私どもとしては、それを来年の第2四半期に切り替えたいということで、積極的に5Gのポテンシャルを活かしていきたいと思っております。

楽天は1億以上のユーザー様がいて、様々なサービスをやっておりますので、楽天エコシステムと連携する形で5Gのサービスを展開しようと思っております、ここにも出ておりますとおりスポーツチームも所有しておりますので、スポーツ観戦体験ということで、AR、VRを活用した新しい観戦の仕方も5Gを活用して、今、様々な実験を行っております。

当然私どもだけではなくて、オープンイノベーションということで、5Gを起点として自治体、大学、企業等のパートナーの方々と楽天モバイルパートナープログラムを開始いたしまして、BtoBtoXといいますか、私どもだけではなくて、いろいろなパートナー様と5Gのサービスを提供していきたいということでございます。

最後でございますけれども、都民の皆様が料金やデータ量を気にせず5Gの超高速・大

容量を当たり前に活用できる世界へということでございまして、料金も、今年9月に発表した際に、4G、データ容量無制限で2,980円という非常に破壊的な、今までとは全く違う料金体系でやっているのですが、5Gにつきましてもその料金で行うということで、5Gについて追加の料金を頂かないということでございまして、スライドの右上に出ておりますけれども、実質5Gをタダで御提供しますということで、Tada 5Gというのを推しております。

基地局も限定的ですので、もちろん5Gを実際に使っているユーザー様というのは多くはないのですが、4Gだけを見ましても、携帯各社の倍以上のデータを使っていたという事で、何ギガまでだと幾らということが気になられて、実は思い切り使っていなかったということが私どもとしても実感しておりますので、自分たちの基地局のところでは2,980円で無制限で5Gも含めて使っていただけますので、5G時代には、そういったことを気にしない時代が来ると思っていますので、それをますます推進していきたいと思っております。

引き続きよろしく願いいたします。

以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、最後にJTOWERの田中社長、お願いいたします。

○田中様 株式会社JTOWERの田中と申します。

弊社はインフラシェアリング事業者になります。

TOKYO Data Highwayでの弊社の役割、そしてこの1年間、東京都様、あとは各携帯事業者様とどういった取組を行ってきたのかについて御説明したいと思います。

まず、弊社の役割ですけれども、建物内、あとは工作物に複数の携帯事業者様が対策を行う場合に、携帯電話のインフラを共用することによって、効率的な5G環境の整備を行うことが1点目です。インフラを共用することによって、省エネ、省スペース化にもつながると考えています。

そして、窓口の一本化。さらに、複数の工事を1回にまとめることによって、携帯事業者様のコストや設備投資の低減を図ることに努める、これが弊社の役割と考えています。

具体的にこの1年、どのような取組を行ってきたのかについて御説明したいと思います。

まず、東京都様や携帯事業者様と定期的集まるTDHの分科会、今年はたしか5回開催されたと思います。コロナの影響もあって、みんなリモートで参加しておりました。ここで、東京都様のアセットを活用して、5Gを整備するための業務のプロセスを一緒に策定しております。このスライドにも書いてありますけれども、特定のアセットに対して複数の携帯事業者様が対策を希望する場合には、弊社が東京都の担当局様の窓口、対面となって、構築物の図面や各種書類等のやり取りを我々のほうで取りまとめた上で、各携帯事業者様に御提案、調整等を行う。こういった業務フローの構築を行ってまいりました。

1年間の結果といたしましては、スライドにも記載させていただいておりますとおり、23

件の窓口を担うことが決まっております、今後、順次共用設備の導入を図ってまいりたいと考えております。

先ほど来、各携帯事業者様からも御説明がございましたけれども、弊社も西新宿にて2本のスマートポールを設置しております。都庁近くの新宿住友ビル前と、新宿三井ビル前の2本を建柱しています。ちょうど先月から、携帯事業者様のほうで順次5Gサービスが開始されております。

先ほど小池都知事からも説明がございましたけれども、この都庁の1階、2階において、共用設備による5Gの対策を実現しました。建物内では国内初となります。弊社の共用設備は全携帯事業者様のSub6の帯域に対応しております、都庁内では10基のアンテナを設置しております。

ちょうど昨年開催されたサミットのときには、実は共用装置自体存在しておりませんでした、通常、装置の開発には1年半～2年ぐらいかけております。ただ、今回は何とか今年の11月、今月に間に合わせようということで、開発を急ピッチに前倒して行いました。宮坂副知事がよくおっしゃっていた爆速で開発を行いました。

あとは、各携帯事業者様にも優先して接続試験や認証の手続を実施してもらいまして、何とか今月の初めに5Gのサービスを開始することができております。

まとめになります。先ほども御説明したとおりですが、この1年で5Gを整備するに当たって、個別の対策もそうですし、共同で対策するときもそうですし、しっかりとこの業務フローの構築を完了することができたかなと思っています。

あとは、5G対応の共用装置も出来上がりましたので、これからの1年を、東京都様や各携帯事業者様のニーズを確認しながら、私どもは複数の事業者様が利用する要はシェアリングのニーズがある場所になりますけれども、できるだけたくさんさんのエリアで、たくさんさんの施設で、屋内・屋外問わずしっかり5Gの展開、5Gの共用と対策の推進を図ってまいりたいと考えております。

以上になります。

○村井座長 どうもありがとうございました。

今日は参加していただいた全ての方から、かなり力強い御報告をいただきました。

東京都のアセットを共有するという事。それから、それを皆様で使っていただくというこの試みが本当に動き出したということです。

まず、宮坂副知事と小池知事からお話を伺いたいのですが、爆速と言いますが、本当に爆速できちんとできましたね。今、5Gのスクリーンショットを撮りたいなら新宿で、となっているぐらいで、かなりできるようになりました。

これはどういう御感想をお持ちですか。

○宮坂副知事 知事からもよく出るのですが、これからの都市間競争を決める基本インフラになるのは道路とか鉄道とか電力も大事だけれども、やはりネットワークだろうと。特にこれから5Gは、次のスマートシティとか、もしかすると感染症対策にも、大事だろう

ということで、先ほど田中社長からもありましたけれども、業務フローもかなり見直しまして、これまでは携帯キャリアの皆様がどこの窓口に行けばいいのだろうと探していたことが多かったらしいのですけれども、探すのはこちらでやりますと。ワンストップ窓口をつくったり、データベースも今まではテキスト型の情報を出していたのを、そこに緯度経度を入れてもらえると皆様のツールに取り込みやすいというニーズをいただきましたので、緯度経度を1万5000件も付与していきまして、そういったことが少しずつ形になったと思います。

そこで新たなサービスを幾つか実証させてもらいましたけれども、来年はぜひ5Gならではのサービスを皆様と一緒に都民に届けられればいいなと思っております。

○村井座長 ありがとうございます。ぜひ、爆速が爆々速に進むといいなと思います。

知事、今のお話を聞いていかがですか。

○小池知事 世界の激動と、周回後れなどということ言われてきたわけですがけれども、通信環境を一気に整えなければ、極東の島国になってしまうぞという危機感をすごく持ちながら進めております。

振り返ってみれば、先ほど村井先生から、2000年につくられたIT基本法を改正するというお話でありましたが、私は経済企画庁の政務次官をやっていて、堺屋長官の下にいて、インパク（インターネット博覧会）をやっていたのです。ということで、実はこれにも関わっていたと。

もっと振り返ると、1994年に総務庁の政務次官をやっておりまして、担当は2つありました。地方分権と規制緩和で、規制緩和は2つ大物をやりました。一つが地ビールの解禁です。もう一つが携帯電話の買取り制、端末の自由化です。考えてみたら、皆様の業界をサポートすることに私もかなり関わってきたなと改めて思います。

ここはもう世界の競争なので、国内もさることながら、世界と競争していくことをぜひとも進めていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様、ここをもっと何とかしてほしいとか、ぜひ現場の声をおっしゃっていただければと思います。宮坂副知事が爆速で解決します。

そして村井先生、国の様々な規制というか、法律的な問題も多々あるかと思っておりますので、そこをどうスムーズにしていくかも大きなポイントだと思っております。

よろしくをお願いします。

○村井座長 ありがとうございます。

私も、今日伺ってきたことは全て大事で、今、知事がおっしゃったことも、私が申し上げたかったことが含まれていたなと思っております。

今回、IT基本法をつくっていくというときに、先ほども申し上げましたけれども、最初のターゲットはインフラでした。それは本当におかげさまで、ある程度の力強さを持っている国だと思うのです。2000年のときも世界最先端と言ったのだけれども、今年初めに出てきた紙に、世界に追いつこうと書いてありました。しかし、世界に追いつこうという考え方で、私たちが前に進められるわけがないだろうと、色々これからも課題は指摘されて

いるところですが、志は高く世界最先端でいくという心意気でいきたいなと思います。

一方、今回は置いてきぼりをつくらないとか、情報アクセシビリティ、みんなのためという考え方で、国民側の目線でデジタル化がどう進むかということの基本法の中で言っていこうということになっています。本日御報告いただいたなかにはそういった形のものがあるし、夢もあると思うのです。

また、これは最初から言っていますけれども、東京は国際的にも大都市なので、世界の中で比較されたときに、日本が自信を持てるDXが東京からできるということが本当に大事なことになってくるのではないかと思います。

最後に、知事も、副知事も、それから皆様をお願いしたいのは、パブリックなアセットを提供して、みんなで力を合わせて先へ進めるということをやっていくと、ここでしか解けないことがあると思うのです。

一つの課題は縦を横につなぐということです。例えば学校も、教室は教育のためだけでも、体育館はそれだけではないかもしれないから整備が違ふとか、公共の場所には目的がいろいろあるのだけれども、でも災害のときは避難所として市民のための空間ということになります。縦を横につなぐ。つまり、今までは部門が違ふから一緒にできなかったようなことが、公共のアセットを使うとできることがあると思うのです。縦を横というのはいろいろあって、東京都は今回多くの部門の方に出てきていただいています。従来は部門が違っていたから、守備範囲が違ったところをつなぐのもそうですし、もちろん東京都と他の都道府県もそうですし、政府の中の各省庁もそうです。皆様方のビジネスセグメントが縦に分かれているけれども、力を合わせたらどうなるのか。こういうこともパブリックアセットだとやらなければいけないチャレンジだと思うのです。そういうことも今日は伺えたので、私はとても嬉しく感じました。

ぜひ、このTOKYO Data Highwayのプロジェクトがこういうことの本当のチャレンジにつながって、世界最先端を見据えることができるといいなと思いました。

時間が来てしまいましたので、まだたくさんお話を伺い、議論をしたいのですが、また次の機会にさせていただきます。これで議事進行を事務局にお渡ししたいと思います。

どうもありがとうございました。

○芹沢デジタルシフト推進担当部長 村井座長、どうもありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、知事から一言挨拶を申し上げます。

知事、お願いいたします。

○小池知事 今、もう村井座長がおまとめいただいたことに尽きているわけですが、5Gを有効に使うことによって、Quality of Service、そしてQuality of Lifeをいかに高めていくか。そして世界との競争に打ち勝つか。このことかと思えます。

また、誰も取り残さないというSDGsのことについても、大胆に、かつきめ細やかに進めることがポイントかと思えます。

それによって、遠隔医療や自動運転、防災、様々な分野での革新的なサービスの向上が得られるように、ぜひつなげていきたいと考えております。

国策でやっている国は何でも一気にやっけてしまいますけれども、東京においては、皆様の意識、方向性を一にしながら、共に歩んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

東京はハイブリッドシティでいきたいと思っております。つまり、リアルとバーチャルの両方が使えるという街で、そして楽しい、楽だといったことをみんなが共感できる街にしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○芹沢デジタルシフト推進担当部長 ありがとうございます。

皆様、本日は、御多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

これもちまして、「第2回TOKYO Data Highwayサミット」を終わります。

どうもありがとうございました。

午後3時01分閉会